

2 「古典学の再構築」の基本構想と組織

1. 基本構想

(1) 開始までの経緯

諸古典学の交流をはかる必要は、10年来、処々で強調されていたが、平成8年秋、その気運がようやく具体化した。領域代表の中谷は16名の研究者から成る研究班を組織し、新重点領域(当時の呼称)を準備するための文部省科学研究費補助金を申請し、採択された。これが、平成9年度基盤研究(B)「古典研究の再構築—文化横断的な解析・総合方法の開発による—」である。この研究班は、昨年度、京都、東京、浜松において3度の全体会議を開催したほか、領域別や課題別の小会議を重ねて、新特定領域構想を練った。

この討議を踏まえ、平成9年12月に、特定領域研究「古典学の再構築」申請書(40ページ)を文部省に提出した。その結果、平成10年5月にヒアリングを受け、7月3日に選定通知があり、研究を開始することとなった。

(2) 基本方針

1. 「古典」の範囲は、時代的には、原則として中世までとするが、文明の状況に応じて柔軟に捉える。また領域的には、人文科学の対象に限らず、法律など、社会科学の対象も含む。
2. 「古典学」とは、「古典」の読解に従事する研究とする。
3. 研究計画は、諸分野の交流を最大限に行い、成果のつきあわせ、新方法論の確立が実現するよう策定する。
4. 古典学の異分野、古典学以外の異領域、および一般社会にたいする研究成果の提示を積極的に行う。

(3) 計画概略

1. 研究組織：計画研究(32研究)と公募研究(約45研究)で組織する。総括班(1班)、調整班(7班)を置く。
2. 研究期間：5年間(平成10年度～14年度)。
3. 研究成果の提示：
 - (a)『通信・古典学の再構築』を随時発行して、研究者の情報流通を図る。
 - (b)国際シンポジウムを研究期間内に数回開催する。
 - (c)研究成果報告：刊行物として公刊する(『講座・

古典学』)。

(d)『古典選集』を刊行する。

2. 「古典学の再構築」の研究組織

本特定領域研究は、現代古典学の諸課題に対応し、古典学を再構築するため、1件の総括班研究、7件の調整班研究、7調整班に所属する32件の専門研究からなる計40件の計画研究、および同じく7調整班に所属する約45件の公募研究の合計約85研究によって遂行する。また本特定領域研究にたいする評価を受けるため、評価委員を置く。

(1) 領域代表者(1名)

- 領域を統括する。

(2) 評価委員(2名)

- 古典学外の立場から本特定領域研究を評価し、領域の研究に反映させる。

(3) 総括班(12名)

- 総括班は、領域代表者(1名)、評価担当者(2名)、調整班代表者(7名)、事務担当者(2名)の計12名よりなる。総括班員としての評価担当者は、上記評価委員とは異なり古典学研究者とする。
- 領域全体の方針を策定する。
- 各調整班における「研究成果の突き合わせ」の結果を取り纏める。
- 古典学諸領域における「最近半世紀の成果総括」と「方法論的反省」を取り纏める。
- 調整班「近現代社会と古典」とともに古典および古典学の将来像に関する検討を行う。
- 古典諸領域の連携のための組織作りを検討する。
- 日本語訳の「訳語」、「文体」を検討し、日本語訳刊行(『古典選集』(仮称))を企画する。このために日本語訳検討委員会を総括班のもとに設ける。
- 研究成果や古典に関する未来像の提示を行うため、書籍(『講座・古典学』)、報告書(『通信・古典学の再構築』)の出版、新聞、テレビ、インターネットなどのメディアによる広報、あるいは国際シンポジウムの開催などを企画する。

- 上記の出版企画および広報を担当する出版委員会および広報委員会を総括班のもとに設ける。
- 総括班のもとに特定領域事務局を設ける。

研究項目ごとに調整班を置き、課題の近接した計画・公募研究の連絡・調整を目的とする調整班研究を行う。以上の研究組織を図示すれば、下図のとおりである。

(4) 研究項目と調整班

古典の研究は、(A)古典の「読解」に関するもの、(B)古典の「伝承」に関するものに分かち得る。本特定領域では、前者を4項目、後者を3項目に細分して、以下の7種の研究項目とする(研究項目の詳細は、後の「研究項目について」に詳しく紹介する)。

研究項目	
読 解	伝 承
A01. 原典	B01. 伝承と受容(世界)
A02. 本文批評と解釈	B02. 伝承と受容(日本)
A03. 情報処理	B03. 近現代社会と古典
A04. 古典の世界像	

各研究項目の研究は、複数の計画研究と公募研究(ともに個人または小人数による研究(研究(2)の形態))によって遂行される。その1研究は、複数の研究項目に互りうる。

(5) 研究組織名簿

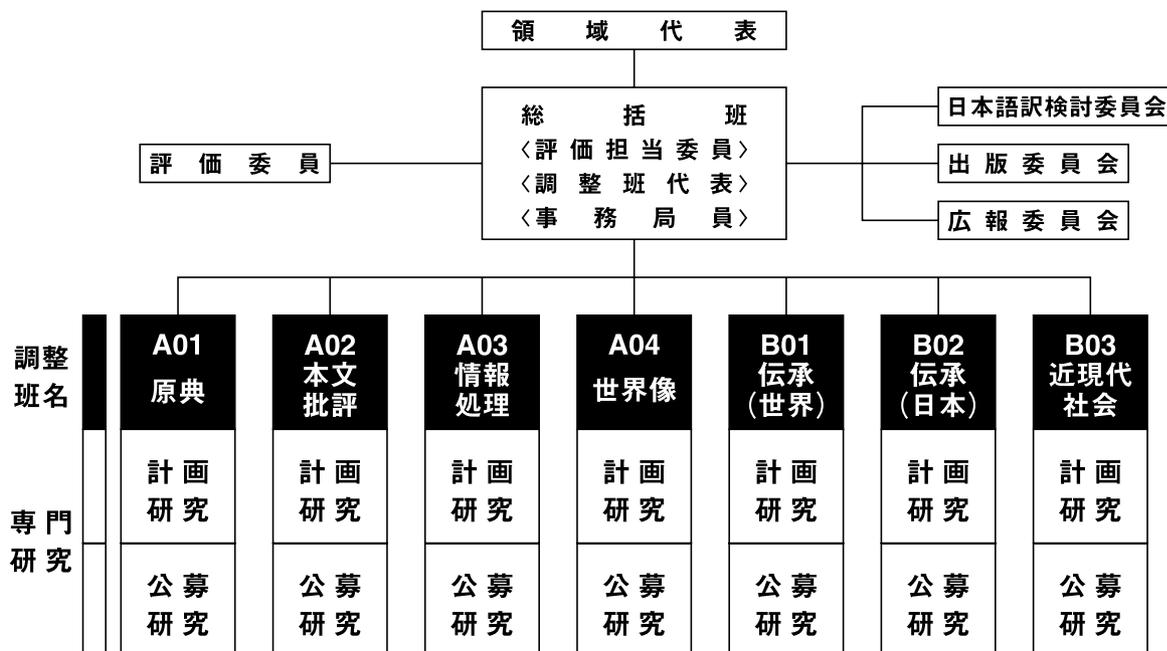
- 1) 領域代表者：中谷英明(神戸学院大学人文学部教授)
- 2) 評価委員：上山春平(京都大学名誉教授)・中根千枝(東京大学名誉教授/学士院会員)
- 3) 総括班：名簿は次ページ。
- 4) 調整班と計画研究：名簿は次ページ。

次ページの名簿には、計画研究代表者を所属する調整班ごとに示す。1研究の内容は、複数の研究項目に互り得るが、主要な研究項目調整班に所属させて示した。調整班会議には、当該研究項目に関する全ての研究者が参加するものとする。

研究項目内の計画研究の順序は、地理的に日本に近い領域から遠い領域へ、次の順序に従う(ただし調整班代表者は先頭に置く)。

1. 日本
2. 中国
3. チベット
4. インド
5. イスラーム
6. イスラエル
7. 西洋

「古典学の再構築」研究組織



総括班員名簿

氏名	所属機関・職	備考
中谷英明	神戸学院大学・人文学部・教授	領域代表者
藤沢令夫	京都大学・名誉教授	評価担当者
高崎直道	鶴見大学・学長	同上
池田知久	東京大学・文学部・教授	調整班代表 (A01. 原典)
関根清三	東京大学・文学部・教授	同上 (A02. 本文批評と解釈)
徳永宗雄	京都大学・文学部・教授	同上 (A03. 情報処理)
内山勝利	京都大学・文学部・教授	同上 (A04. 古典の世界像)
江島恵教	東京大学・文学部・教授	同上 (B01. 伝承と受容 (世界))
木田章義	京都大学・文学部・教授	同上 (B02. 伝承と受容 (日本))
中川久定	京都国立博物館・館長 / 学士院会員	同上 (B03. 近現代社会と古典)
丸井 浩	東京大学・文学部・助教授	事務担当
斎藤希史	奈良女子大学・文学部・助教授	同上

計画研究代表者名簿 (は調整班代表者, は研究分野責任者を示す。)

調整班	氏名	所属 (学部等)	研究分野
A01. 原典	池田知久 五味文彦 御牧克己 間野英二	東京大学 (文) 東京大学 (文) 京都大学 (文) 京都大学 (文)	中国 (哲学) 日本 (史学) チベット (哲学・文学) イスラーム (歴史)
A02. 本文批評と解釈	関根清三 興膳 宏 佐藤 研 丸井 浩	東京大学 (文) 京都大学 (文) 立教大学 (文) 東京大学 (文)	イスラエル (旧約聖書) 中国 (文学) イスラエル (新約聖書) インド (哲学)
A03. 情報処理	徳永宗雄 安永尚志 及川昭文 村上征勝 高橋孝信	京都大学 (文) 国文学研究資料館 総合研究大学院大学 統計数理研究所 東京大学 (文)	インド (哲学・文学) 日本 (データベース) 日本 (情報処理) 日本 (統計処理) インド (タミル文学)
A04. 古典の世界像	平田昌司 内山勝利 川原秀城 中谷英明 鎌田 繁 杉山正明 市川 裕	京都大学 (文) 京都大学 (文) 東京大学 (文) 神戸学院大学 (人文) 東京大学 (東文研) 京都大学 (文) 東京大学 (文)	中国 (文学・語学) 西洋 (古代哲学) 中国・朝鮮 (科学史) インド (初期仏教) イスラーム (宗教) イスラーム (歴史) イスラエル (タルムード)
B01. 伝承と受容 (世界)	江島恵教 中務哲郎 西村重雄 小川正廣 大月康弘	東京大学 (文) 京都大学 (文) 九州大学 (法) 名古屋大学 (文) 一橋大学 (経)	インド (仏教) 西洋 (古代文学) 西洋 (古代法学) 西洋 (古代文学) 西洋 (中世法学)
B02. 伝承と受容 (日本)	木田章義 米井力也	京都大学 (文) 大阪外大 (外国語)	日本 (国語学) 日本 (国文学)
B03. 近現代社会と古典	中川久定 中川純男 月村辰雄 松浦 純 羽田 正	京都国立博物館 慶応大学 (文) 東京大学 (文) 東京大学 (文) 東京大学 (東文研)	西洋 (近世文学) 西洋 (中世哲学) 西洋 (中世文学) 西洋 (中世文学) イスラーム (歴史)